



学校だより  
**桜っ子  
通信**

校訓  
自ら学び  
自ら考え  
自ら行う

令和4年12月2日 第59号  
長崎市立桜町小学校長 野中正樹

## 桜っ子くんち「よいやー！」

11月20日(日) 第21回桜っ子くんちを開催することができました。本年度も、新型コロナウイルス感染症対策として、2学年ずつの3部構成とし、併せて、一家庭の参観者を原則2名までとさせていただきます。このことに関して、保護者の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

また、桜町小学校PTA本部役員の皆様には、受付や会場整理等を快く引き受けていただいたこと、並びに西野会長様のご尽力により、体育館での演し物(だしもの)の様子をライブ配信ができたことに、重ねて感謝申し上げます。

なお、会場である体育館での参観者の込み具合や保護者席の間隔等を総合的に勘案すると、次年度以降もこのような方法で実施することが妥当だと考えているところです。

さて、本年度も、各演し物の指導者の皆様には、ご多用な中にもかかわらず、何回もご来校いただき、子どもたちに熱心に御指導していただきました。また、演し物の稽古に入る前に、地域の方や歴史文化博物館の学芸員の方にお越しいただいて、長崎くんちの歴史や演し物の由来、各踊町の皆さんのくんちに対する思いなど、分かりやすくお話ししていただきました。おかげさまで、子どもたちは、桜っ子くんち本番で、それまでの稽古の成果を発揮して、一人一人が輝くことができました。参観された保護者の方から、「子どもたちの真剣な表情にとっても感動しました。」「みんなが生き生きとがんばっている姿がすばらしかったです。」「本当にすばらしい演し物だったので、思わず「もってこーい」と掛け声をかけていました。」などのお褒めの言葉をいただきました。また、以下の子どもの振り返りにあるように、各学年の実態にに応じて、多くのことを感じ取り、学ぶことができました。

最後になりましたが、今回も、タシロフォートスタジオ様から、写真データをいただきました。その一部を裏面に載せておりますので御覧ください。タシロフォートスタジオ様の御厚意に感謝申し上げます。

なお、本校ホームページには、カラー写真で掲載しておりますので、よかったですらそちらもご覧ください。

ぼくら元気な桜っ子のかなきんを回すところや最後のきめのポーズのところを頑張りました。自分のめあてどおりに踊りのあとの列が揃えられてうれしかったです。リハーサルでは緊張して声が全然でなかったけど、本番では大きな声で歌うことができました。最初は「手のひらを太陽に」がピアノとあんまりそろえることができませんでしたが、お稽古を重ねるうちにどんどん揃うようになってきたのが、うれしかったです。(1年生 〇〇〇〇さん)

ぼくは、大太鼓を担当しました。初めは全然でなかったけど、稽古をしているうちにリズムが合うようになりました。元船町の方がたたき方を教えてくださったので、力強くたたけるようになりました。いつも昼休みに練習しました。唐人船といっしょにやるようになると、突然できるようになりました。しかも、いっしょにやると楽しくなってきました。本番が一番よくできました。3年生でも太鼓をやりたいです(2年生 〇〇〇〇さん)

本番を終えて、くんちや川船がなぜこんなに長く続いたのか分かったような気がしました。くんちや川船は、みんなに元気をとどけることができるといいし、みんなの絆や友情を深めることができ、長い稽古を積み重ねてきて「もってこーい」や「よいやー」の掛け声がかかったとき、ほっとした気持ちや達成感を味わうことができる、とても楽しく、歴史のあるお祭りだと思いました。ですから、町の方々には、これからも長崎くんちを続けてほしいと思います。(3年生 〇〇〇〇さん)

私は、4年生の演し物のお神輿の練習で、最初は慣れなくて人任せにしてばかりだったけど、「みんなを幸せにする思いを担ごう。」と心の中でめあてを立てて稽古し、その思いを叶えることができました。また、桜っ子くんちとおして、長崎くんちはとっても大変だということが分かりました。なので、長崎くんちのポスターを貼ったり、長崎くんちに関するイベント開催したりして、もっともっと多くの人たち、長崎くんちを知ってほしいと思いました。(4年生 〇〇〇〇さん)

私は桜っ子くんちとおして、学んだことがたくさんあります。その中で一番に残っているのは、「伝統をつなぐ」ことです。くんちをつなぐには、本当の気持ちがないとできないんだと思いました。稽古の最後に、指導者の中村さんが言われた「ハトンは渡しましたよ。」という言葉がすごく重く感じて、桜っ子くんちを経験した私たちだからこそ分かるんだと思いました。伝統をつなぐことは、その人の思いを背負ってすることです。来年も町の方の思いを背負い、レベルアップして臨みたいです。(5年生 〇〇〇〇さん)

ぼくは、桜っ子くんちの太鼓山の稽古とおして、大きく変わったことがあります。それは、「気持ち」です。ぼくは最初、「友達が声を出してくれるだろう。」「自分くらい、いいかな。」そんな気持ちでした。しかし、稽古を重ねるうちに「来た人を感動させたい。」「自分のためにも全力を出したい。」「中途半端は嫌だ。」と思うようになり、本番では全力を出し切りました。一人一人が100%とあと少しがんばれば、予想以上の力が出ることを知り、このことをこれからの生活に生かしていきたいです。(6年生 〇〇〇〇さん)

